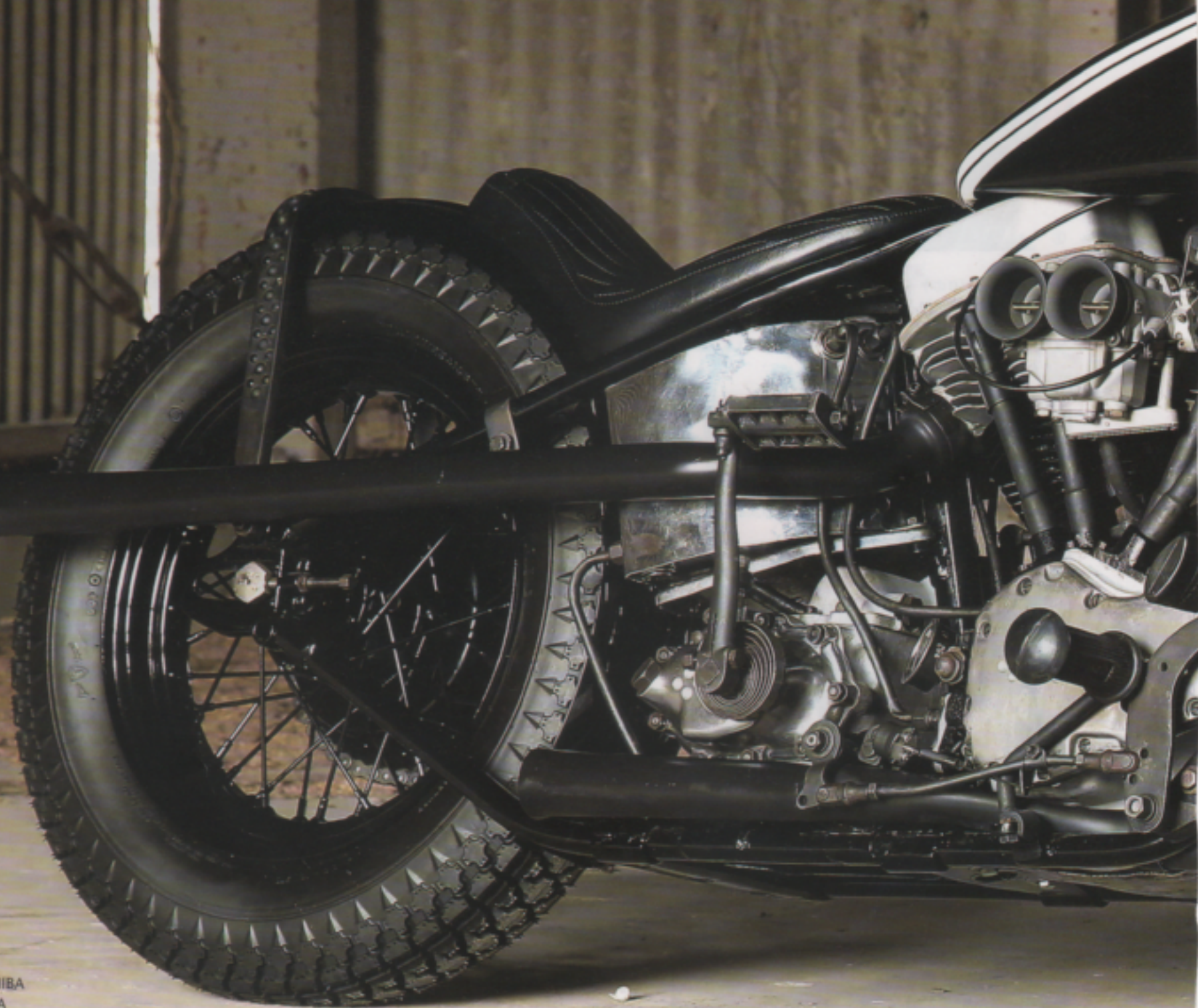


Black Leaf

1961 H-D FLH



Owner KAZUYA HASHIBA
Text by YUTA KINPARA
Photos by HIROSHI NOSE
Special thanks to CYCLE WEST TEL:0493-81-4552 URL:cycle-west.blogspot.jp





Black Leaf 1961 H-DFLH 現代の技術でアップデートするオールドスクール

オールドスクールなボバースタイルをシンプル&クリーンなフィニッシュで仕上げた、サイクルウエストのビルダー西山氏製作の"Black Leaf"。古くからあるボバーと同様に、リジッドフレームにスプリンガー、3.5ガロンの分割タンクを使用。純正のデザインを活かしながらも、現代のカスタムバイクとして完成させたことに、このマシンの意義がある。当時モノのパーツやラットな雰囲気にも頼らずとも、クラシカルなボバーは作れるということを証明する1台だ。昨今のボバーの傾向は、高価なヴィンテージパーツで武装した車両も少なくないが、この"Black Leaf"に関して言えば、リアパーツの使用は皆無で、そこにはヴィンテージパーツの存在感に媚びない西山氏のプロビルダーとしてのプライドが感じられる。

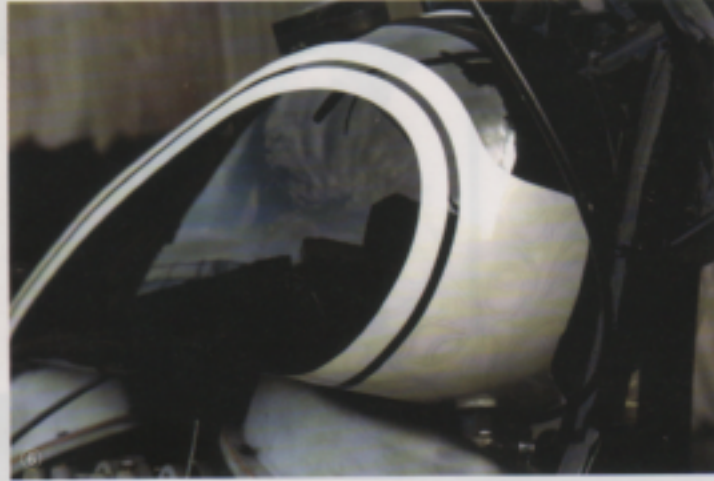
「昔のボバーをそのまま作るのではなく、サンドブラストや黒染めのパーツを使うことで、オーナーが乗っていくうちにヤレ

た雰囲気になるバイクを意識しました」

ベース車両はオーナーの生まれ年だという'61年式のFLH。エンジンはストックに準じたレストアに加え、ハイカムやツースロートを備え、日常使いの範囲内で程よくホップアップされる。フューエルタンクのペイントラインは'61年の純正のラインをモチーフとしたもので、そこにエアブラシで唐草を落とし込み、タンクカバーやシートにも同様にレザーカービングで唐草をあしらうことで、カスタムバイクとしての気品を漂わせた。またステーやカバーなど、ドリルドを施したパーツを全身に散りばめることで、王道のフォルムを崩さずにレーシーな雰囲気をより強調している。基本的な骨格はオールドスクールの枠を逸脱することなく、現代の加工技術やカスタムペイントを駆使。いにしへのスタイルをショークオリティのカスタムへとアップデートさせることに成功した好例と言えるだろう。



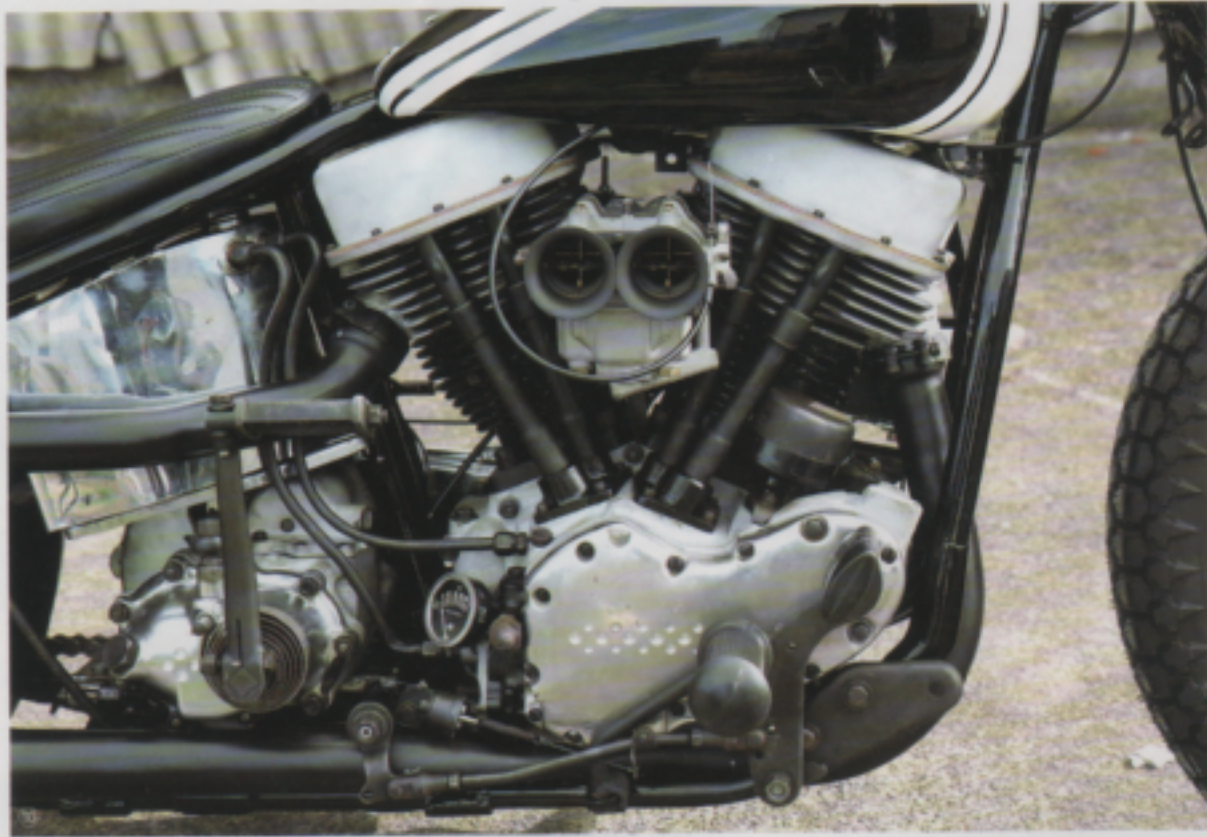
① 絶妙な曲線を描くクラシカルなハンドルバーはHWZNBROSSのオリジナル、TTバーをブラックアウトして装着。オールドスクールなボバーのスタイリングに相性抜群だ。② 74スプリンガーに装着されるドッグボーンライザーはPSYCLE SHOPで手にいれた'70sパーツに大胆にドリルド加工を施した。③ グリップは、いにしへのボバーのイメージで伸縮性の高いシリコン製のグリップを装着。見た目重視のディテールのようなが、グリップの細さを調節できるので握りやすい。④ ヘッドライトはトラクターライトを流用。



⑤ドリルドが施されたコンソールはワンオフ。また、So Jakeが製作を担当し、唐草模様がカービングで描かれるレザーカバーが高級感を演出する。⑥外装のペイントは420Kustomsによるもので、'61年の純正タンクのグラフィックをモチー

フにしたラインの中に、唐草模様がさりげなく同系色のエアブラシで描かれる。⑦'60年台のイギリスの小型車などに採用されていたD型スミス・クロノメトリックのスピードメーターは、前傾姿勢でも視認性を損なわないようにタンク上面

にマウント。⑧シフトはタンクサイドのハンドシフト。シフトノブはワンオフで製作。⑨フロントブレーキはCCIの片ハブドラムを採用し、ウィールをスッキリと見せている。タイヤサイズはF19-R16で前後ファイアストーンをチョイス。



⑩エンジンはH-Dの'61年式FLHをストックに準じたレストアに加え、アンドリュースのハイカムをインストール。サンドブラストを当てたカバー類や、黒染めのプッシュロッドカバーは、経年変化も期待できる。カムカバーにもさりげなくドリルドを施している点が惜しい。⑪キャブレターはS&S ツースロートチョイス。あえてのファンネルでレーシーなイメージを盛り上げる。⑫ステップはトライアンフの純正を流

用。⑬ホワイトがアクセントとなるバンヘッド用のプライマリーカバーはパウコで、ドリルドが施される。⑭縦タックロールのシートはSo Jakeによるワンオフ。シート後部にはタンクのデザインと統一した唐草があしらわれる。⑮リアフェンダーは定番のFORDのスペアタイヤカバーを加工して流用。ドリルドを施したフェンダーステーが無骨な印象を醸し出す。